

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所はすてる				公表日	令和 8 年 3 月 13 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	室内の広さが不十分であるが、広い庭を整えて屋外での活動が充実できるように努めている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	3	危険な箇所はチェックして安全対策を行っているが、バリアフリー化はできていない。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		活動前後に清掃を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎年アンケートを取って、インターネットで結果を公表している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		支援の課題などを共有し、対応策について話し合いを行っている。		
	9	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		施設内の研修や業務に関係のある施設外の研修に参加している。		
適切な支援の提供	10	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ホームページにより公表している。		
	11	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		定期的にモニタリングやアセスメントを行い、職員会議にて意見を収集し作成している。		
	12	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		保育士、児童指導員も参加して検討している。		
	13	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1	個別支援計画に基づき行っている。		
	14	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	フォーマルなアセスメントが少し不十分である。		
	15	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5				
	16	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5				
	17	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1			
18	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		状況に応じて組み合わせて行っている。			

	19	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	2		
	20	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2		
	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	22	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し の必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを行っている。	
	23	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組 み合わせて支援を行っているか。	5		子どもの意思を尊重しながら、日常生活の充 実のため多様な遊びや体験活動を取り入れて いる。	
	24	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決 定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	1		
関係機 関や保 護者との 連携	25	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議 に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	26	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、 教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		
	27	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時 刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡） を適切に行っているか。	4	1		
	28	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支 援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2		
	29	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所 等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等して いるか。	5		訪問して様子を見学するとともに情報提供を 行っている。	
	30	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		鳴門市調整会議や子ども支援部会に参加して いる。	
	31	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や 課題について共通理解を持っているか。	5			
32	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログ ラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機 会や情報提供等を行っているか。	3	2	チラシ等を配布している。		
保 護者へ の説 明等	33	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を 行っているか。	5		契約の際に説明している。	
	34	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意 思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こど もや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		定期的にアセスメントを行っている。	
	35	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行 い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		支援内容を説明して、署名を頂いている。	
	36	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必 要な助言と支援を行っているか。	5			
	37	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するととも に、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に 対応しているか。	5		会議をおこなった後、記録を残している。	
	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することによ り、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対 して発信しているか。	5		ばすてるだよりを定期的にお渡ししている。	
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
40	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮 をしているか。	5				

非常時等の対応	41	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		契約後しばらくしてから各マニュアルを周知している。また、定期的に防災訓練を行っている。	
	42	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		業務継続計画を作成し、必要な訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		アセスメントにおいて確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	保護者より医師の指示書のコピーをいただいたり、口頭で説明を受けている。	
	45	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	46	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		周知している。	
	47	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットの記録簿を作成し、それにより検討している。	
	48	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止研修を定期的に行なっている。	
	49	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			